

5-1-2 遺構保存に関する計画

過酷な気象条件や自然災害等からの被害や、来訪者増加による遺構の踏圧や崩れなどのリスク等から遺構を守るため、整備を行う。

- 毀損の程度や整備計画の関係性を踏まえながら、計画的に遺構を保存する。
- 石垣等遺構の毀損を招く恐れのある支障木等は、減伐及び枝払いを行う。
- 野生動物や来訪者の侵入を防ぐ必要がある箇所は、柵等による侵入防止策を講じる。
- 山内における遺構に対する犯罪やいたづらを防止するため、防犯カメラといった防犯設備導入を検討する。
- 台風や大雨に対する排水設備や、落雷に対する避雷針など、自然災害から史跡を守るための防災設備の整備を行う。
- 整備にあたっては、拠点や主動線における適切な景観の回復を図るとともに、周辺の景観との調和を図る。

5-1-3 歴史的建造物や庭園等の修復に関する計画

過酷な気象条件や自然災害等により毀損が進行している歴史的建造物や庭園等の保存修理において、広大な範囲を有する史跡英彦山内で効率的かつ重点的に、今後の活用を考慮しながら整備を行う。

- 緊急性や必要性を勘案しながら、調査研究に基づき保存修理を行う。
- 整備にあたっては、各拠点や動線における適切な景観の回復を図るとともに、周辺の景観との調和を図る。
- 所有者との話し合いをもとに、保存修理の必要箇所や進め方等を調整しながら保全していく。

5-1-4 遺構の表現に関する計画

地下遺構の表示や復元等においては、調査研究や本計画の推進状況、史跡への関心の高まり等を踏まえつつ、整備の必要性を検討する。

- 整備を行う際は十分に調査を行い、文献資料や専門家の助言を踏まえながら進める。
- 遺構表示にあたっては、遺構を傷つけることのないよう、盛土等の措置を図る。

5-1-5 修景及び植栽に関する計画

史跡英彦山の自然環境の保全と、歴史的建造物や工作物、または公開活用のために必要とされる要素等における周辺の景観の調和を図るために整備を行う。

- 修験道との関係や歴史・自然環境の關係に配慮し、参道の桜馬場のヤマザクラや、お札等の和紙の原料として使われたミツマタ、山頂聖域のブナ、勢溜の松等、その場に適した在来種の植樹を行い、自然環境の再生を図る。
- 樹木の剪定や草刈りを行い景観を維持する。
- 日常的な清掃や除草等については、所有者等と協力し実施する。
- 配管や屋外設備等、史跡の価値を損ねる要素については、不要なものは除却し、保存活用を図る上で共存が必要なものにおいては、色彩等を統一し調和を図る。

5-1-6 案内・解説施設に関する計画

広大な範囲の英彦山内に散在する史跡の、空間的な特徴や全体像を捉え、史跡の価値理解を促すための案内・解説施設の整備を行う。

- サインの目的に応じて種類を整理し、色や形状等のデザインの統一を図る。
- 動画やVR・ARといった、デジタル技術と連動した解説設備の整備を行う。
- 所管部局と調整し、効率的で効果的な案内・解説施設の整備を行う。

5-1-7 管理施設および便益施設に関する計画

来訪者に対する安全の確保と便益施設の整備を行う。

- 四阿やベンチ等、来訪者が休憩できる施設の充実を図る。
- 門前坊舎区域等、必要に応じて不足しているトイレの充実・増設を図る。
- 山内における滑落などの可能性がある危険箇所には、手摺等の落下防止柵を設ける。

5-1-8 公開活用およびそのための施設に関する計画

本計画対象地には、既存施設が点在し、また来訪者の史跡の価値理解を促す機能や、見学ルートの案内が不足しているなど、公開活用における機能が整理されていない状態にある。各施設の役割を明示したうえで、今後各施設やエリアの整備事業を進めていく必要がある。

平成28(2016)年3月に策定された『英彦山地区再興整備構想』において実施された英彦山来訪者アンケート結果をもとに、来訪者の行動パターンを分析し、既存施設の各役割と整備方針について導き出している。現状では、英彦山地区の再興整備を目的として、既存の施設を活用しながら、地域全体として役割を果たすこととしている。その中でも活用拠点の中心として、英彦山エリアで唯一の大型空間であり、来訪者が最も多く訪れる英彦山神宮参道の中心部に位置する花駅(旧英彦山小学校)に展示・ガイダンス機能を拡充して整備を行っていくこととする。

文化財出土品収蔵庫として設けられた英彦山修験道館は、現状展示室としても利用されているが、今後は本来の収蔵機能を中心とし、花駅(旧英彦山小学校)の展示内容を見直し充実させるために、施設間での連携体制の強化を図る。また、座主院跡の九州大学農学部附属彦山生物学実験施設における、動植物の標本展示等の公開協力も得ながら、公開活用における機能の充実化を図る。

さらに、本計画において回遊性のある見学ルートの入口となる銅鳥居周辺駐車場には、総合案内板を設置し、史跡英彦山の全体構成が分かる解説やルート案内を行うほか、活用拠点の中心となる花駅(旧英彦山小学校)への誘導を促す機能も持たせる。

表5-1 既存施設における現状と計画概要

施設名	現状	計画
花駅（旧英彦山小学校）	英彦山修験道の歴史文化を伝える資料を展示している山伏文化財室があるが、その前提となる英彦山の基本的な解説が不足している。	分かりやすく史跡英彦山の歴史文化が伝わる展示内容に整理し、ガイダンス機能を整備する。
英彦山修験道館	本来の文化財出土品の収蔵を目的とした施設としての利用だけでなく、資料展示施設としても利用されている。	文化財出土品の収蔵機能を中心とした施設に整備する。
座主院跡 (九州大学農学部附属彦山生物学実験施設)	かつて庭園と実験施設ともに公開されていたが、現在はされていない。	花駅（旧英彦山小学校）と連携し、英彦山の生物研究に関する研究・展示等の公開を図る。
銅鳥居周辺駐車場	ルート案内等のサインがない。	史跡英彦山の全体構成がわかるルート案内サインを設置する。

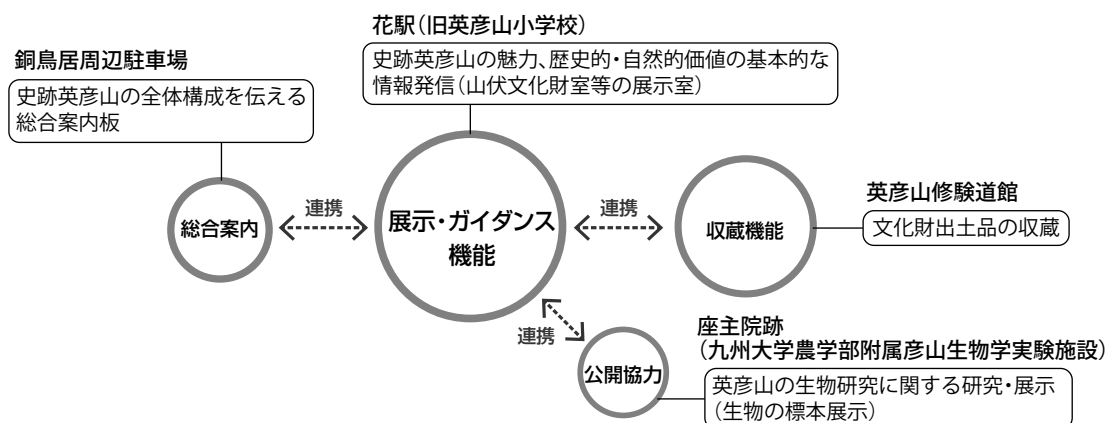


図5-2 既存施設における機能と位置づけの概念図

5-1-9 周辺地域の環境保全に関する計画

史跡英彦山は、周辺地域一体が耶馬日田英彦山国定公園に指定されるなど、貴重な動植物や自然地形で構成されている。景勝地としての保存活用とあわせて、関連法令や担当所管、関連団体等と協力し、周辺地域一体の自然環境を保全をしていく。

- 周辺地域で進められている災害防止を目的とした伐採処理に対し、史跡英彦山の景観保護の環境調整を図る。
- 周辺環境の景観を維持するため、所有者のほか地域ボランティアやNPO団体等の協力を得ながら、日常的な除草や清掃活動等を行っていく。

5-1-10 周辺地域全体における関連文化財との有機的な整備活用に関する計画

周辺地域に点在する様々な関連文化財や名所と、史跡英彦山を一体的に捉えた活用を行うことで、来訪者に史跡の価値と面白さを体感してもらう。また地域住民に歴史や文化を改めて発信し、添田町への愛着を育んでいくほか、伝統文化の活動継承に対する自負や使命感が再燃するように、地域団体等による英彦山や関連文化財を媒介した交流を促進する。

(1) 関連文化財の現状

本町が有する指定文化財の多くが英彦山修験道に関するものであり、英彦山神宮銅鳥居や奉幣殿等の社殿、山伏の宿坊等の有形文化財が英彦山内に分布している。英彦山の麓には、英彦山への往来により形成された日田道の町屋建築や集落の農家住宅等の有形文化財(建造物)が分布している。その他、民俗文化財や記念物等、添田町の歴史を司る様々な文化財を継承している。

表 5-2 国指定文化財一覧

種別		名称	所在	指定年月日
有形文化財	工芸品	修験板笈	英彦山	昭和34(1959)年6月27日
		彦山三所権現御正体	英彦山	平成5(1993)年6月10日
	書跡・典籍	仁王般若経〈上下〉(色紙金銀箔散)	英彦山	平成2(1990)年6月29日
	考古資料	福岡県英彦山経塚出土品	英彦山	昭和63(1988)年6月6日
	建造物	英彦山神社奉幣殿	英彦山	明治40(1907)年5月27日
		英彦山神社銅鳥居	英彦山	昭和14(1939)年10月25日
		中島家住宅	添田	昭和52(1977)年1月28日
		旧数山家住宅	津野	昭和53(1978)年1月21日
民俗文化財	無形民俗文化財	豊前神楽	津野	平成29(2017)年4月15日
記念物	史跡	英彦山	英彦山	平成29(2017)年2月9日
	名勝	英彦山庭園 (追加指定)	英彦山	昭和3(1928)年2月7日 令和2(2020)年3月10日
	天然記念物	英彦山の鬼スギ	英彦山	大正13(1924)年12月9日
		鷹巣山	英彦山	昭和16(1941)年8月1日

表 5-3 県指定文化財一覧

種別		名称	所在	指定年月日
有形文化財	彫刻	木造薬師如来坐像及び台座	中元寺	昭和30(2018)年7月21日
	工芸品	梵鐘 文禄三年追銘	英彦山	昭和41(1966)年10月1日
	建造物	板倉	英彦山	昭和41(1966)年11月15日
民俗文化財	有形民俗文化財	英彦山資料	英彦山	昭和52(1977)年4月9日
		英彦山修験道関係文書	英彦山	昭和53(1978)年3月25日
		高田家所蔵英彦山修験道文書	英彦山	昭和53(1978)年3月25日
		英彦山楞嚴坊修験資料	英彦山	平成3(1991)年11月15日
記念物	史跡	庄原遺跡	庄	平成15(2003)年2月5日
	名勝	英彦山顕揚坊庭園	英彦山	平成23(2011)年3月18日
	天然記念物	英彦山のぶっぼうそう	英彦山	昭和32(1957)年8月13日
		英彦山のトチノキ	英彦山	昭和39(1964)年5月7日
		英彦山のボダイジュ	英彦山	昭和39(1964)年5月7日
		諏訪神社のイチイガシ	中元寺	昭和46(1971)年6月15日

表 5-4 町指定文化財一覧

種別		名称	所在	指定年月日
有形文化財	彫刻	十二神将12体	中元寺	昭和57(1982)年6月10日
	建造物	中村家住宅	添田	平成23(2011)年6月10日
民俗文化財	無形民俗文化財	彦山踊り	英彦山	平成2(1990)年3月31日
記念物	史跡	英彦山大河辺山伏墓地	英彦山	平成10(1998)年3月20日
	天然記念物	吉木のヤマザクラ	落合	平成3(1991)年6月7日
		大峰の大クヌギ	津野	平成3(1991)年8月7日

(2)教育分野や継承における周辺地域一体の取り組みの推進

地域住民に歴史や文化を改めて発信し、添田町への愛着を育んでいくほか、伝統文化の活動継承に対する自負や使命感が再燃するように、地域団体等による英彦山や関連文化財を媒介した交流を促進する。

- 個々の文化財を結びつけるストーリーとして歴史的風致を活かすなど、文化財を巡る散策路として一体感のあるパンフレット・マップ作成を推進する。
- 伝統芸能の講演会等のイベントを開催することにより、これらの活動への積極的な参加を促し、地域の結びつきの再構築を図る。
- 「添田町郷土史会」や「英彦山こてんぐ塾」等との関係団体との連携により、質の高い教育機会の提供を行う。
- 英彦山内の史跡を構成する要素を巡るまち歩きイベントや宿坊、庭園等の公開活用イベントを開催する。
- 児童・生徒に対し、添田町の歴史や文化財に係る授業を実施する。

【歴史文化遺産の保存・活用に係る文化財保護・まちづくり団体】

添田町郷土史会	NPO 法人「アートもん」	添田町観光ガイドの会	上添田財団区奏楽保存会
添田町 de キャンドルナイト実行委員会	重文・中島家住宅推進協議会	英彦山こてんぐ塾	
英彦山神輿を担ぐ会	英彦山踊り保存会	英彦山門前町同好会	等

(3)周辺施設を活用した回遊動線の開発

来訪者が史跡英彦山とその周辺の魅力を体感できるように、英彦山と添田町を代表する名所を絡めたコースの充実を図る。

- 英彦山を訪れた後に気軽に立ち寄れるコースの提案など、魅力的なパンフレット・マップの作成を推進する。

【周辺地域の施設・名所】

中島家住宅	中村家住宅	旧数山家住宅	添田公園	岩石城	岩石山
道の駅歓遊舎ひこさん	ひこさんホテル和	オークホール	等		